

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	せんだんの杜ものうなかつやま
所在地 (県・市町村名)	宮城県石巻市桃生町給人町字東町96番地2
記入者名 (管理者)	佐藤 優子
記入日	平成 20年 5月 31日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で意見を出し合い、話し合いをもって、事業所独自の理念をつくった。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念について、全職員で振り返りの場をつくり、話し合っている。又、「利用者の気持ちに寄り添った介護が提供できるよう、毎朝のミーティングや、会議の場において、対応の方向性を確認し取り組んでいる。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	事業所便りを家族や地域の人に発行して、理念や活動について伝えている。手作りボードにて、理念を来所者の目につく所に掲示している。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方と、畑でとれた野菜のやり取りの交流があったりする中で、芋煮会をおこなったり、散歩や買い物の際にも挨拶や話しなど、近所の方たちとの距離も年々近づいている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の清掃活動や秋祭りに参加している。施設スペースを、地域の方に開放しており、その一方で、その方達が草刈りを行ってくれる事がある。収穫祭、運動会、ボランティア訪問など小学校との交流もある。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域アンケートをとり、それを基とし、母体組織・住民の方と共に町の福祉を考えるフォーラムを開催した。スポーツ少年団の親の会の方達と、救急対応の講習会の実施。独居の方への、配食サービスの実施。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価記入を行った上で、話し合う場をもうけている。会議にて、外部評価の結果・今後の課題を伝えている。課題によっては、十分取り組めなかった所もあるので、継続的に取り組めるようにしたい。	○	外部評価後には計画的に課題検討する。また、自分達の介護について振り返りの場などに活用していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、月に2回実施され、事業所活動の報告や地域情勢などについて話されている。サービスについて、具体的な意見交換ができるよう、職員全体で取り組んでいく必要がある。	○	職員一人ひとりが、会議について積極的に参加していき、委員の方にも事業所への理解を深めてもらう中で、率直な意見をもらえるようにしたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者に対し、市の「リハビリ相談会」や「認知症相談会」を活用し専門員や市職員に協力・アドバイスを求める機会をつくっている。	○	課題解決の際などには、相談したり、市の活動などに対しても情報を入れるように活用していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者の身元引受人の方より相談があり、対応させて頂いた事がある。今後も、外部研修等で学ぶ機会はあるが、個々の知識としてだけでなく、全職員で理解し支援していきたい。	○	事業所内での、勉強会の実施。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修などで学ぶ機会はあるが、個々の知識としてだけでなく、今後の為にも、全職員で理解していきたい。	○	事業所内での、勉強会の実施。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際には、その都度説明し不安、疑問点を尋ねつつ、理解を頂いている。細部については、独自のチェックシートを活用している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見や思い、変化については、会議などで話し合い、思いに応える為の検討をしている。家族にも伝え、理解や協力を得られるようにしている。苦情についての連絡体制をつくっている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には様子を伝え、遠方の家族とはメールを使用している。体調に変化があった時には、その都度連絡、相談している。金銭管理の確認は、基本的に毎月行うようにしている。定期的に手紙や会報など送っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へ希望や意見を聞く機会を設けている。契約時、事業所としての苦情窓口や、県や市の相談窓口を伝えている。事業所としての連絡体制を作っている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年度ごとの事業計画は、全職員で意見を出し合って作成している。個々の面談やアンケートを通し、意見を聞く機会を設けたり、日頃から話しやすい雰囲気づくりに努めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の生活に合わせられるよう、勤務を調整しつつ、変化や要望があった時にも職員間で相談し柔軟に対応している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職する職員を最小限になるよう努めている。異動した後も、職員が遊びに来て一緒に食事を摂ったり、逆に利用者が会いに行ったりと交流がある。出産し離職した職員が子供を連れて遊びに来てくれたりしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の成長段階や抱えている課題に応じて、外部研修へ参加させている。個々の研修希望や自己課題を出し、母体施設と協力のもと内部研修を実施している。	○	職員同士、興味のあることや疑問について勉強会ができるといい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の地域密着サービス事業所の研修、ケアプラン巡回相談会の活用、ケアマネ情報交換会、包括支援センター主催の圏域ケア研修などに参加し、交流する機会をつくっている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個人面談の実施。親睦会の実施。職員の事情を汲み勤務調整を行っている。ストレスや悩みについて、話しやすい関係づくりができています。	○	職員が心身共にくつろげるスペースづくりに努めたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は資格取得や職場での努力、実績を把握し、評価し仕事をまかせたり、向上心につなげている。職能評価を行い面談など行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に訪問して話を聞いたり、逆に食事を摂りつつ遊びに来てもらったりし、関係づくりをしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	訪問や来所などで、話す機会を何度か持ち、利用者や家族の状況、思いを聞くように心掛けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況を聞き、他の福祉サービスや施設の情報を提供したりしている。場合によっては、担当ケアマネジャーや利用サービス職員などと話しをし対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が何度か訪問したり、逆に遊びに来てもらったり、同施設のショートステイを利用し宿泊していただいたりと、馴染んで頂けるようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員も利用者とのコミュニケーションの中で、生活の知恵や昔の風習、その方が得意とすることなど教えて頂いてる。役割を持って頂、感謝の声を掛けるなど共に支え合っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの中の出来事や気づきの情報を共有し合い、共に利用者を支える協力関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者と家族の状況を理解した上で、互いに心身的に安定し、支え合えるようサポートしている。(帰宅の都合を図る。入院期間や書類手続きの支援)		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所に暮らす馴染みの友達とお茶のみの行き来をしたり、馴染みの床屋に通ったり、お墓参りにいったり、関係が継続されるよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同志の相性や性格、個性などをよく把握し、関わり合いや支え合いができるよう場面づくりや調整役をするなど支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の病院に移られた方へ定期的に行ったり、家族とも電話や手紙などでやり取りを続けている。亡くなった方の所へお焼香やお墓参りに行くようにしている。今後の支援がスムーズに運ぶようにケアマネジャーと話し合いを行う。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に聞いたり、家族から情報を得たりし把握に努めている。これまでの経過や、言動の変化などにも目をむけ、利用者の思いをくみ取るようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、知人、友人、介護サービスの職員などとの話しの場を大切にしつつ、情報を得ている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の変化など特変に至る可能性の予測を含め、記録、観察、報告している。利用者の力に目を向け、それが発見できた時には、力を伸ばせるよう関わっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の希望や家族の意見をもとに、職員間でも話し合いをし作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間、状態変化に合わせて見直しを行っているが、場合によっては、状態変化に対してのプランの見直しが遅れてしまうことがある。	○	職員間での情報や意見交換を活発にし、利用者の状況に応じ必要なプランを作成していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	様子や気づきを個々のケース記録に記入し、排泄や健康面など情報を見やすく整理している。個々の状態に合わせ細かく記録に残したりし、情報共有しながら実践に活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じて、帰宅や通院などの支援をしている。また、学童保育や地域住民に施設を開放していることで生まれる地域の方との結びつきを、利用者の生活の広がり活かしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	小学校の活動で、児童が利用者と交流したり、消防署の方より、救急時の対応の講習を受けたりしている。読み聞かせボランティアの活動に利用者も参加している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	市で実施しているリハビリ相談会や、認知症相談会などを利用し、専門員よりアドバイスを受けるようにしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加してもらい、互いの情報交換、協力体制の関係づくりを行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月1回、協力医に定期往診に来ていただいている。その都度相談できる関係づくりをしている。他にかかりつけの病院がある方については、家族と相談し、年に数回職員も受診に同行し情報交換している。突発的な受診については、家族に連絡を取り対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介助に入る際は、利用者の自尊心や羞恥心のに配慮して声掛け、対応している。「ケアで心掛けたい事」として作った表をもとに、ケアの振り返りを話し合う。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	言葉がうまく発せられない方には、問い方を工夫したり、1対1でゆっくり話をする。混乱している方には、制限せず行動に付き添うようにし、原因・対応を皆で考えながら、不安解消につとめている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望や思い出を引き出しながら、畑仕事や外食、買い物、食事づくりなどしたり、起床・就寝時間もまちまちだったり、個々のペース・気持ちを尊重した暮らしの支援を行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎日化粧をする方、自分の好みで服を選んで着る方、行きつけの店で髪を切る方など、それぞれの身だしなみ、おしゃれをしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや習慣、季節にあわせ畑でとれたものなどで食事を作り、職員も一緒に味わっている。また、調理や片付け作業を一緒に行うことで、食べること以外にも食事の楽しみを共有している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	家族が作った梅酒で晩酌をしたり、一緒におやつを買いに行ったり、出前をとってみたい、個々の嗜好にあわせ支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	記録にて、個々の排泄パターンを把握したり、排泄サインを知り、誘導対応している。トイレでの排泄を促し、オムツ類の使用を減らす働きかけを行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの希望・習慣・体調を知り、希望に添えるよう検討している。夜間入浴や、冷え性・浮腫みのある方に足浴を行ったりしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	休息や就寝時間も個々の体調・習慣にあわせている。音楽を聴きつつ休んだり、眠れない時は、一緒に話をし過ごすなどしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	植木を庭で育てたり、家族と外の店でお茶し過ごしたり、小学校の介助犬講習に参加したり、それぞれの生活歴や興味事を取り入れ、活気づくりや、心身の居場所づくりにつとめている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族と確認し、個人で金銭管理し買い物している方もいて、必要に応じ、一緒に帳面をつけるなど、管理のサポートをしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に、散歩や食材の買出しなど、気分転換に出掛けている。ドライブや外食、友人宅へ遊びに行ったりと楽しみづくりをしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	主に、市内での行動が多いが、介護度の高い方でも娘さんの家に遊びに行ったり、家族と外で過ごす時間をつくったりと、機会をつくり支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	直接会えない時でも、電話で声を聞くことで安心につながっている。定期的に絵手紙を送ってくれる親戚へ、職員もサポートして返事を出し、やりとりをしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族はもちろん、昔からの友人と一緒にお茶のみしたり、以前入居していた施設の友人が会いに着たりし、自室やパブリックスペースを使い、楽しくゆっくり過ごしてもらえよう雰囲気づくりに配慮している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を母体施設と共に月1回実施しており、情報を得ている。利用者個々のリスクを把握して、ケアの工夫、改善や留意点など話し合い、身体拘束しないケアに努めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけていない。所在確認をまめに行い、気持ちが落ち着かず一人で外へ行く方には、一緒に外へ歩くよう対応している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、必ず一人はフロア待機し、主に居室で過ごす方にも定期的に訪室するよう心掛けている。夜間は一時間に一回見回りしている。状況に応じ回数を多くするなど対応している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況と物品の危険度に応じた管理、保管に注意している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	リスクマネジメント委員会を母体施設と共に月一回実施している。ヒヤリハット記録、事故報告書をもとに話し合いをしたり、傾向をまとめたりしつつ防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て、蘇生法、搬送法など学ぶ機会をつくっている。緊急時対応のマニュアルを作成し、皆で周知するようにしている。	○	全職員が、急変、救急時に確実に対応できるよう、実技講習など企画し身につける。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練や火災報知機の説明会を行っている。非常食を準備している。	○	訓練時に近所の方へ、参加協力の呼びかけをするなどし、理解とむすびつきを得ていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族には、日頃の状況とリスクと対応方法について話している。事故が行った際には、状況報告を今後の対策を職員で検討し伝えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化については、専用の記録にまとめ情報共有しやすく、また家族や医療機関にかかった際、スムーズに報告できるよう工夫している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを整理し、薬の把握に努めている。誤薬、飲み忘れのないよう、薬管理について検討を重ねている。確実な対応を心掛けている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜や乳製品、水分の摂取をすすめ、日常動作の中で、意識して身体を動かすよう働きかけをしている。下剤使用の方には、医師に確認のうえ、身体に負担のかからないよう、個々の状況にあわせ服用してもらう。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝、晩の口腔ケアを行っている。他に、義歯の具合、嚥下能力、介助の必要度に応じ、うがいや洗浄などの介助をしている。協力歯科医の口腔ケア講習を受けるなどしている。	○	昼は、口腔ケアしていない方もいるので、取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一緒に食事を取りつつ、摂取量や嗜好の把握に努めている。特に配慮が必要な方には、個々の記録をつけ対応している。同施設内の栄養士に相談したり、アドバイスを受けたりしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防委員会を母体施設と共に月一回行っている。知識を持ち、予防と早期発見に努めている。毎日、ノロウイルスの消毒の実施。全利用者、職員がインフルエンザの予防接種を受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は、毎日購入している。栄養士のアドバイスを受け、アルコール消毒や塩素系洗剤の消毒を毎日行っている。毎食、原材料と調理済みのものを二週間保存している。食中毒の勉強会の実施。全職員毎月検便実施。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	地域の方や、家族より頂いた装飾品を飾ったり、玄関先にプランターの花を置いたり、温かみのある雰囲気づくりに努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある装飾をしたり、子供達の絵を貼ったり、掘りごたつやソファなど備えている。窓からは山や田、学校の校庭、花壇などみつつ、四季を感じつつゆったり気持ちよく過ごせる雰囲気を作っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	パブリックスペースが二箇所あり、利用者同士や家族と、または個人でゆったりした雰囲気で過ごしてもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれ好みや使い慣れたベッドやテレビなどを持ち、本人にとって居心地のよい空間を作るようにしている。一部の利用者については、殺風景な部屋になっている方もいる。	○	生活の中から、少しずつ居室の環境づくりを行っていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	湿度や室温の目安を掲示し、各職員が意識できるようにしている。臭いがこもらないよう、清掃や換気に配慮している。時には利用者とアロマを楽しむこともある。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体はバリアフリーである。居間に小上がりの和室があったり、安全に自分の力が発揮できるよう、浴室の手摺りを工夫して取り付けている。今後も、利用者の身体機能に応じて、対応をはかっていきたい。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	できることを探し、サポートしつつ一緒に行うようにしている。場所の認識が難しくなってきた方にポイントとなるものを置き、感覚的に定着していけるように関わっている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑作りをしたり、花を育てたり、外でお茶のみできるスペースを設けたり、気持ちよく過ごせるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)